

第6学年道徳学習指導案

日 時 平成23年9月9日（金）
児 童 洋野町立帯島小学校 6年生 17名
指導者 伊藤 雅子

1 主題名 正しいと信じて（公正・公平、正義4－（2））

2 資料名 わたしの一票（学研）

3 主題設定の理由

（1）価値について

学習指導要領第3章、道徳の第5学年及び第6学年の内容4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の（2）に「だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正、公平にし、正義の実現に努める。」とある。

学習指導要領において、公正、公平にすることとは、「私心にとらわれずだれにも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避け、社会的な平等が図られるようにふるまうこと」とされている。このような公正、公平な態度を育てていくことは、民主主義社会の実現において大切なものであり、社会正義を身につけるために必要なものである。

6学年の児童は、他に対して差別をすることや偏見をもつことは頭の中ではいけないことだと分かっている。しかし、実際の日常生活の中においては、自分の利害や感情が優先されてしまい、他の立場を考えない態度をとってしまうこともある。そのような児童の実態を踏まえた上で、自分の利害や感情に左右されることなく、偏ったものの見方や考え方をとらわれずに、だれにでも公正、公平に接していくこと、みんなのことを考えていくことが、社会全体の幸せにつながるという価値に気付かせていきたい。

（2）児童について

一 本学級の児童を個々にみると、差別や偏見がいけないことで、だれにでも公正、公平な態度をとることの大切さは頭の中では理解している。しかし、個々が集団となり他との関わりをもつと、自分や特定の友人との関係を優先させ、不公正、不公平な言動や態度をとることがある。実際にそのような言動をとって、相手を傷つけてしまいトラブルになることが何度かあった。

これまで、公正・公平の価値にかかわって、1学期に「みんなの人権」を学習してきた。主人公の「私」の行動に共感する、共感しないか、どちらとも言えないか立場を決めさせ、本時と同じように話し合いを通して価値に迫る学習形態をとった。共感する児童は1名で、残りの児童は、共感しない立場とどちらとも言えない立場にだいたい半々ずつ分かれた。この時は、道徳の学習での話し合いに慣れていないこともあり、担任が話し合いをつないでいったが、第1時で自分の立場を決めていたことや、学習シートに立場を決めた理由を書いていたことで、普段道徳の時間にあまり自分の考えを言えない児童も積極的に発言をしていた。最後の振り返りでは、始めの立場と比較することで、児童の考えが変容したり深まったりしたと感じた。

本時についても、同等に、自分の利害や感情、友人との関係に左右されることなく、だれにでも公正、公平に接しようとする態度、そして親しい仲であっても間違いを正そうとする社会正義の大切さに気付かせたい。

(3) 資料について

主人公の三郎は、学級会の計画委員である。ある時、「ボールの使い方」を学級会に取り上げてほしいという要望があった。その原因となっていたのは、三郎と仲良しの正夫であった。三郎は正夫との関係を考え、学級会でこの話題を取り上げるか心の中で葛藤する。悩んだ末、最後は正夫が不利になると分かっているながらも、三郎は学級全体のことを考えて学級会の議題に「ボールの使い方」を選んだ。学級会が終わると、正夫は三郎に「きみのことばで気がついたよ。ボールをひとりじめにして、みんなにめいわくをかけていたよ。」と声をかけてきた。三郎は自分の思いが正夫に伝わったことにほっとし、正夫の肩に手をかける、という内容である。

仲良しである正夫の立場と学級全体の問題、どちらをとるか三郎が葛藤する場面を、自分と重ね合わせながら児童に考えさせていきたい。その上で、たとえ親しい友人であっても学級全体にとってためにならないことがある場合は、公正、公平に指摘することの大切さに気付かせたい。

(4) 指導にあたって

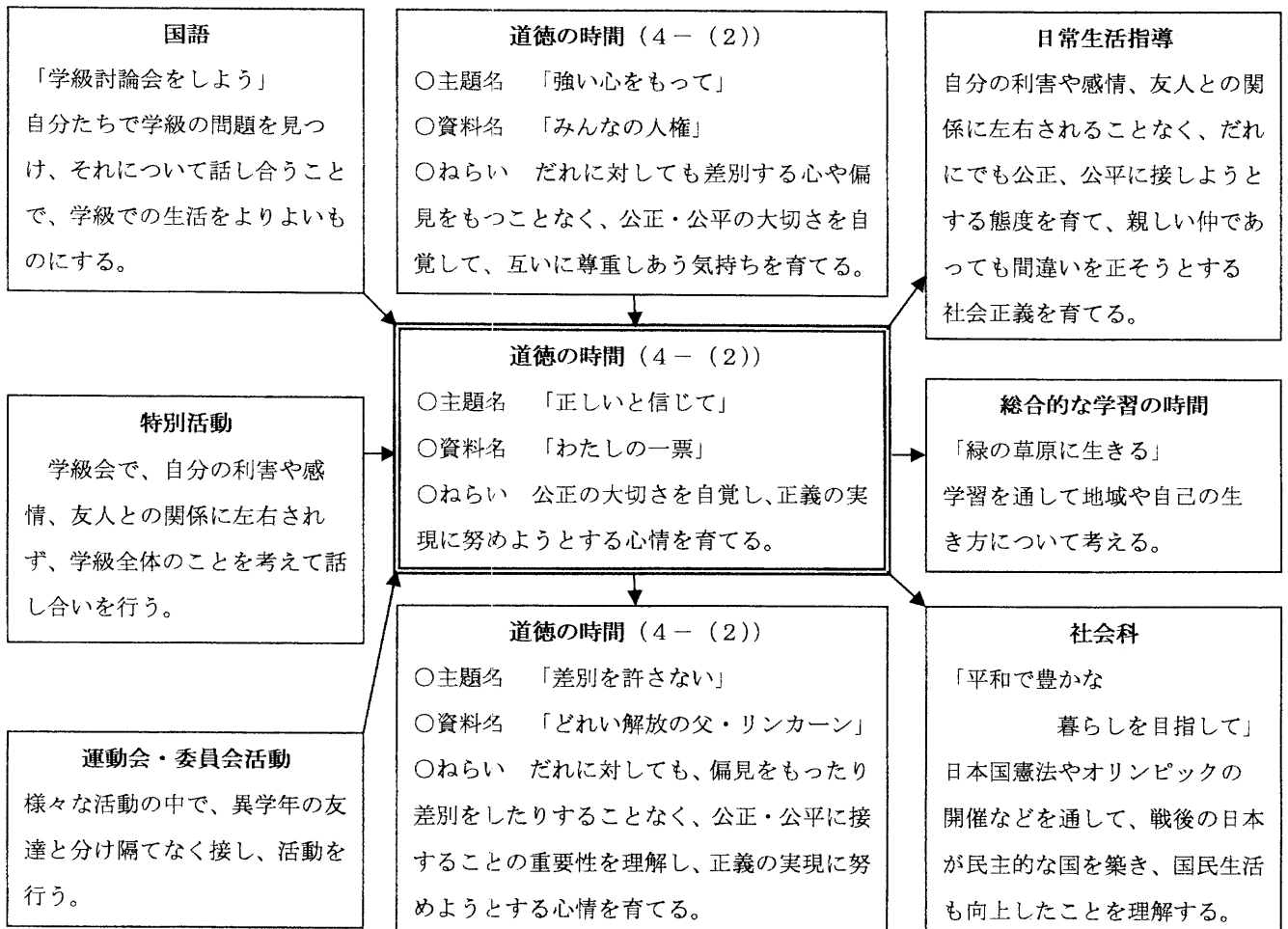
仲良しである正夫の立場と学級全体の問題、どちらをとるかで悩む三郎の心の葛藤を、自分と重ね合わせることで、だれにでも公正、公平に接しようとする態度、そして親しい仲であっても間違いを正そうとする社会正義に対する理解を深めさせたい。そのために、1時間目に資料の前段を提示し、道徳シートに三郎の行動についてどう思うか、じっくり時間をとって、自分の考えを書かせる。そして、児童が三郎の行動をどのようにとらえているのかを教師側がおさえておき、2時間目の学習での話し合いにつなげる。

2時間目は、1時間目に書いたことをもとに自分の考えを発表させる。その際の留意点として、三郎の気持ちに重ね合わせることで、心の葛藤を考えさせる。まず、三郎の行動を批判的にとらえている児童の考えをとおして、仲良しの友人である正夫であるが故に投票することに葛藤している三郎の心情にも十分共感させていきたい。その後、共感的にとらえている児童の考えを発表させ、親しい友人の立場を考えることも大切ではあるが、学級全体、みんなのことを公正・公平に考えることがより高い価値であることに気付かせていきたい。発表の際には、自分とは違う立場の考えについてどのように思うか、投げかけていくことで、話し合いを仕組んでいきたい。

そして、それぞれの立場の考えの違いを明らかにしたり、考えを深めたりすることができるように話し合いを展開していく中で「たとえ大切な友人であっても集団や社会全体のことを考えて、公正・公平に判断することや、社会正義のために行動することの大切さ」に気付かせていくことで、児童の道徳的判断力を高めていきたい。

最後に、本時の学習を振り返って「学級のみなどとかわっていく上で大切だと感じたことは何か。(どんな経験か。その時、どんなことを考えたり、感じたりしたか)」という視点で児童に学習を通して学んだことを書かせて、発表させることで、価値の主體的自覚を図りたい。

4 他の教育活動との関わり



5 ねらい

公正の大切さを自覚し、正義の実現に努めようとする心情を育てる。

6 展開

(1) 第1時

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 10分	1 公正・公平に関する教師の体験談を聞き、自分ならどうするかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 仲の良い友達だから、注意したくてもできないと思う。 自分なら仲の良い友達でも注意すると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今回の資料と似ている教師の体験談を途中まで児童へ話し、自分ならその時どうするかを考えさせることで、資料への課題意識をもたせる。
展開 30分	2 資料「わたしの一票」の前段を読む。		<ul style="list-style-type: none"> 主人公の心の葛藤に共感させるとともに、自分の課題としてとらえさせるため、前段を P58L11 までとし、

展開 30分	3 資料のあらすじを確認する。		その後の内容をここでは示さない。 ・場面絵やカードを用いて登場人物や条件・状況をしっかり把握させる。
	4 自分が三郎と同じ立場だったら、ボールの議題に投票するかしないか考え、学習シートに記入する。 ◎自分が三郎だったら、ボールの議題に投票しますか、しませんか。	【投票する】 ・みんなのことを考えれば、議題にした方が良い。 ・正夫に分かってもらいたい。 【投票しない】 ・正夫に嫌われたくない。 ・後で直接言ってあげれば済む。	・三郎の心の葛藤と自分とを重ね合わせた上で自分の考えをもたせる。 ・「投票する」「投票しない」のどちらか一方を選ばせ、その理由を考えさせる。
終末 5分	5 「わたしの一票」という題名にふれる。 6 次時の予告をする。	・三郎の一票で決まったから。	・たった一票だけれど、重い一票だったことを確認する。

(2) 第2時 (本時)

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 前時の学習内容を確認する。		・三郎が、計画委員としての立場と正夫の友達としての立場で葛藤していることを確認する。
展開 35分	2 前時に書いた内容をもとに、理由を明確にしながらそれぞれの立場について話し合う。 ○自分が三郎だったら、ボールの議題に投票しますか、しませんか。	【投票しない】 ・みんなの前で話し合うのは正夫がかわいそう。 ・急に学級会で取り上げなくても良いのではないか。 ・仲良しなら、学級会ではなくて、直接注意してあげればいいのではないか。	・前段は P58L11 までとする。 ・第1時のシートをもとに、児童の実態を考慮し、意図的指名や発問を行い、話し合いを組織化するように働きかける。

<p>展 開</p> <p>35 分</p>	<p>4 資料「わたしの一票」の後段を提示し、後段を読む。</p> <p>5 正夫の言葉を聞いた時の三郎の気持ちを話し合う。 ○正夫の言葉を聞いた三郎はどんな気持ちだったか。</p>	<p>【投票する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正夫が悪いから仕方がない。 ・計画委員として学級を良くしようとしたのだから良い行動だと思う。 ・いくら友達だからと言って、良くないことをそのままにしてはいけないから、三郎の行動は正しい。 ・ボールは学級みんなの物で、正夫1人のものではない。 ・学級全体の公正・公平を考えることが大切だ <p>・正夫が自分の思いを分かってくれて嬉しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出して、一票を入れて良かった。 ・計画委員の責任を果たせた。 ・みんなのことを考えて行動できて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「投票する」という考えの児童には「投票しない」という立場の友達の考えについてどう思うか問いかけることで、自分の立場の理由を発表させる。そして、話し合いの中で、仲良しの正夫をかばいたい気持ちも分かるけれど、学級全体のことを考えると、それは公正・公平ではないことに気付かせる。 ・その後は、それぞれの立場で、考えが同じ点や違う点に着目させながら話し合いを進める。 ・意見が出にくい場合は、近くの児童と話し合わせる。 ・三郎の計画委員としての立場を考えさせることで、学級全体のことを考えなければならぬことに気付かせる。 ・後段は P58L12 からとする。 ・後段を簡単に予想させる。 ・正夫の理解を得た三郎の喜びや嬉しさ、公正・公平な行いをしたことの成就感や満足感に気付かせる。
--------------------------------	---	--	--

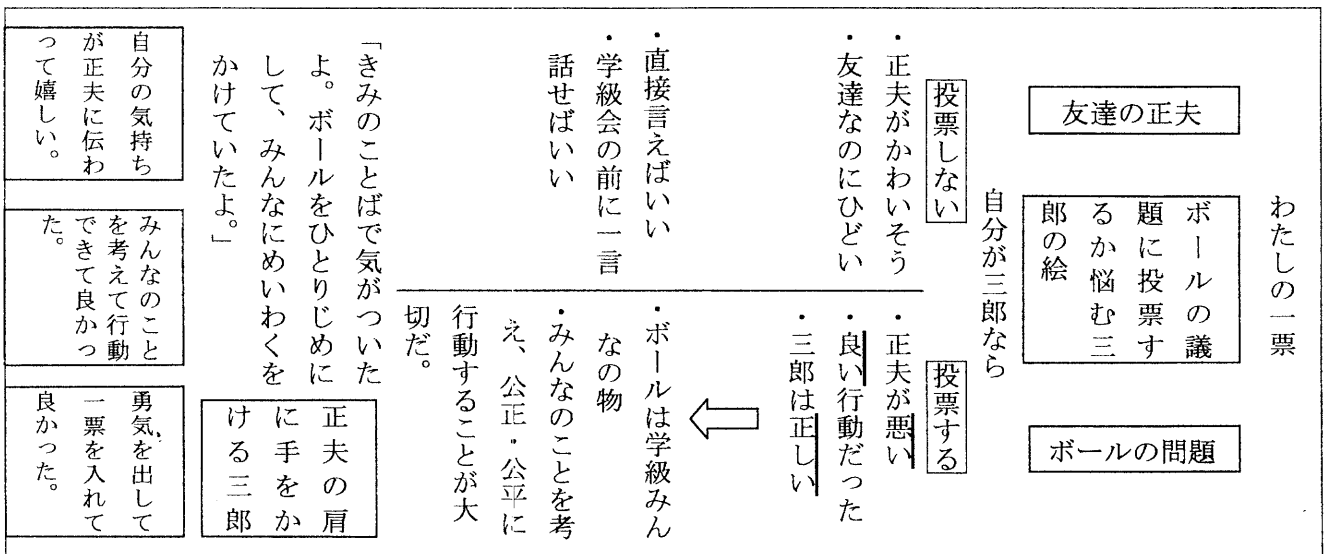
	<p>6 「学級のみんなどかかわっていく上で大切だと感じたことは何か」を本時の学習を振り返りながら書く。</p> <p>◎今回の学習を通して、学級のみんなどかかわっていく上で、「大切だ」と感じたことはどのようなことですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達でもいけないことはいけないと言えるようになりたい。 ・自分のことだけではなく、周りの人のことも考えて行動できるようになりたい。 ・みんなと分け隔てなく、公正・公平に行動することが大切なことに気付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して感じたことを「学級のみんなどかかわっていく上で大切だと感じたことは何か」にして書かせ、価値の主體的自覚を図る。第1時に書いた考えと比べながら、みんなで話し合ったことや資料にふれ、考えの深まりや変容に気付かせる。
<p>終 末 5 分</p>	<p>7 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・利害にとらわれずに、公正・公平に接することの大切さを確認した上で、余韻をもって終わらせる。

7 評価の観点

第1時 三郎と同じ立場だったら、ボールの議題に投票するかしないか、自分の考えをもつことができたか。

第2時 仲良しである正夫の立場と学級全体の問題、どちらをとるか葛藤する三郎の気持ちを考えることで、公正・公平の大切さに気付くことができたか。

8 板書計画



資料分析

【資料分析】資料名「わたしの一票」(学研6年)

場面	主人公の心の動き	子どもの意識	意識の焦点化	発問
<p>学級会の議題に「学級新聞の係への注文」と「学級のボールの使い方」が提案され、三郎はどちらを選ぶか迷う。</p>	<p>・正夫は友達だからボールの使い方にしたくない。でもみんなは不満をもっている。どちらに投票すればいいんだ。</p>	<p>・自分が三郎の立場なら迷ってしまう。 ・三郎はどちらの問題を選ぶのだろうか。</p>	<p>・アンケート結果などから、普段の生活の中にも、似たような場面があることを想起させ、2つの問題の間で悩む三郎の気持ちに共感させる。</p>	<p>◎自分が三郎だったら、ボールの議題に投票しますか、しませんか。</p>
<p>三郎は悩んだ末、最後は学級のボールの使い方に投票するものの、正夫のことを考えると気が重い。</p>	<p>・みんなのことを考えると、やっぱりボールの使い方に投票しなければ。でもやっぱり正夫のことが気になる。</p>	<p>・みんなのことを考えて投票した三郎は正しい。 ・学級会でみんなから責められたら正夫がかわいそうだ。</p>	<p>・学級のボールの使い方に投票した後も、正夫のことを考え気が重くなる三郎の様子をとらえさせる。</p>	
<p>学級会でボールの使い方について話し合う最中、正夫は下を向いて歯をくいしばっているようだった。</p>	<p>・みんなには正しいことをしたけれど、正夫には悪いことをしてしまったかもしれない。正夫、ごめん。</p>	<p>・正夫がかわいそう。 ・学級のボールを好きに使ってきたのだから仕方ない。 ・三郎もつらい。</p>	<p>・最終的に正夫の理解を得た三郎の喜びや嬉しさ、公正・公平な行いをしたことの成就感や満足感をとらえさせる。 ・公正・公平の大切さや、自分の利害にとらわれず正しいことは正しいと言おうとする正義感をもたなければならぬことに気付かせる。</p>	<p>◎自分が三郎だったら、ボールの議題に投票しますか、しませんか。</p> <p>◎正夫の言葉を聞いた三郎はどんな気持ちだったか。</p> <p>◎今回の学習を通して、学級の友達とかかわっていく上で、「大切だ」と感じたことはどのようなことですか。</p>
<p>学級会が終わった帰り道、正夫に明るい顔で話しかけられ、三郎はほっとして、思わず正夫の肩に手をかけた。</p>	<p>・やっぱり自分のしたことは間違っていなかったし、正夫がそのことに気付いてくれて本当に嬉しい。</p>	<p>・三郎の気持ちが正夫に伝わって良かった。 ・2人はやっぱり本当の友達だ。 ・正しいことは伝わるんだ。</p>	<p>・最終的に正夫の理解を得た三郎の喜びや嬉しさ、公正・公平な行いをしたことの成就感や満足感をとらえさせる。 ・公正・公平の大切さや、自分の利害にとらわれず正しいことは正しいと言おうとする正義感をもたなければならぬことに気付かせる。</p>	

「わたしの一票」学習シート No. 1 (/)……………第1時に使用

名前 _____

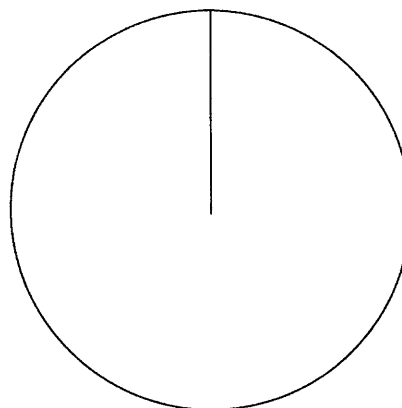
○もし自分が三郎だったら、ボールの議題に投票しますか、しませんか。

どちらかに○をつけましょう。

心のバロメーター

投票する

投票しない



上の立場を選んだ理由を書きましょう。

「わたしの一票」学習シート No. 2 (/)……………本時で使用

名前 _____

◎今回の学習を通して、学級のみんなどかかわっていく上で、大切だと感じたことはどのようなことですか。

○普段の生活の中で、上に書いたようなことを感じたことがあれば、それはどのような経験ですか。

○その時、あなたはどんなことを考えたり感じたりしましたか。
